

# 町自連まつえ

平成25年1月1日 発行 第16号

■発行／松江市町内会・自治会連合会（略称：町自連まつえ）

ごあいさつ

松江市町内会・自治会連合会

会長 佐々木 武男



新年おめでと  
うございます。  
年頭に当たり

皆様のご多幸と  
ご活躍をご祈念

申し上げます。

松江市は、開府四百年に続く次の百年に向けて平成二十四年はスタートしました。しかしながら、世界の政治・経済の混乱、国内の政治経済の混迷の中で困難な課題を解決し進まなければならぬ年でありました。

また、先年來の東日本大震災、南紀の大水害、更に昨年十二月に発生した「中央自動車道笛子トンネル天井板崩落事故」は、私たちの過去の営みについて大いなる反省を求めています。

年末、総選挙が行われ新しい国政の枠組みが作られました。過去のしがらみにとらわれることなく世界的視野をもち国民目線で国政が行われることを期待しています。



松浦正敬

新春を迎え、

市民の皆様には  
ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素から各町内会・自治会の皆さんには、市政の円滑な運営にご協力をいただき、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

さて、昨年四月には合併を成就し山陰最大の都市として特例市に移行し名

ムの維持コストをどのようにするか』本質的なものが問われています。このような状況にあって、「自助・共助・公助」の取り組みこそ必要と考えます。地域課題への取り組みは、各個人の意識改革、各種団体との連携協力が大切だと思います。

町内会・自治会は、その中核的組織として果たすべきものが大きいと思っています。それぞれの地域の課題解決に一層のご尽力をお願いいたします。同時に、松江市連合会の活動につきましても一層のご協力をお願い申し上げます。

そのため、「対話による協働のまちづくり宣言」を行い、これまで以上に職員が皆様の中に積極的に出掛けていき、対話を通じて地域課題の解決に取り組んでいきたいと思っています。

また、中海宍道湖大山圏域の連携や中国横断道尾道松江線の開通予定などの機会を通じて引き続き産業の振興に取り組むことで、地域の成長・振興や定住の促進につなげていきたいと考えています。

## 松江市長挨拶

松浦正敬

新春を迎え、

市民の皆様には  
ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

最後になりましたが、まちづくりの主役は市民の皆様一人ひとりです。大きな節目を迎えるこの時期を「平成の開府元年」と位置づけ、多くの市民の皆さんに貴重な意見をいただきて、二十年先を見据えた新たなまちづくり構想の策定を進めています。皆様と「夢」や「目標」を共有し協働によるまちづくりを一層進めていきたいと思っていますので、今後ともより一層のご支援とご協力を願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

実ともに山陰をリードしていく経済・生活・文化の中核都市となりました。合併により市域が拡大し、歴史や文化、自然、産業など多くの新たな魅力が加わりました。この地域資源を最大に活かした安心で安全な「住んでよかった」と実感できるまちづくりをめざし、皆様と手を取り合って進めてまいりたいと思っています。

今年も様々な課題に  
取り組んでまいりますので  
よろしくお願ひいたします。



常任理事  
中島 勇夫  
(本庄地区)



副会長  
後藤 肇一  
(竹矢地区)



副会長  
田中美知夫  
(秋鹿地区)



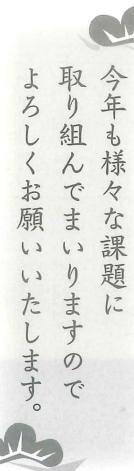
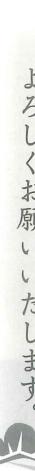
副会長  
三島 健治  
(城西地区)



副会長  
井上 穓  
(鹿島地区)



会長 佐々木武男  
(雑賀地区)



理事  
佐々木省二  
(城東地区)



監事  
石倉 國男  
(津田地区)



監事  
大野 美雄  
(城北地区)



常任理事  
松本 光弘  
(朝日地区)



常任理事  
寺本 修己  
(美保関地区)



常任理事  
福島 利光  
(乃木地区)



常任理事  
熊谷 和恭  
(古志原地区)



理事  
小数賀安富  
(法吉地区)



理事  
曳野 美行  
(古江地区)



理事  
石倉 憲昭  
(八雲地区)



理事  
松浦 久義  
(忌部地区)



理事  
多久和耕吉  
(大庭地区)



理事  
久保田明雄  
(川津地区)



理事  
勝部 廣三  
(玉湯地区)



理事  
福田 安信  
(生馬地区)



理事  
多久和宣久  
(大野地区)



理事  
中村 晴洋  
(白潟地区)



理事  
藤原 二郎  
(島根地区)



理事  
松浦 勉  
(朝酌地区)



理事  
井上 寛巳  
(持田地区)



理事  
松浦 正明  
(東出雲地区)



理事  
吉岡 誠一  
(宍道地区)



理事  
池田 均  
(八束地区)

# 活動紹介

## 平成二十四年度視察研修

### 手作りのまち興し

平成二十四年の視察研修は十一月十五日～十六日に飯南町と呉市を訪問しました。

#### 山間の飯南町谷自治

##### 振興会のまち興し

国道五十四号線の頓原を過ぎて右折し、山深い谷間の県道を走ると谷地区がある。島根県と広島県の県境にある店舗も医院もない世帯数九十五軒の山間のへき地だ。



谷笑楽校

しかし、谷地区では八年前に全世帯が参加して谷自治振興会を結成し「住んでよし、訪ねてよし」の神楽舞う里として、廃校となつた小学校を活動拠点のへき地だ。

お年寄りの病院通いや買い物の足であつた町営巡回バスが廃止されたため、住民が話し合い、県のモデル事業として住民がバスを自主運行させていた。

この事業は総務省の支援による地域おこし隊若手男女二名のスタッフが三年間の期限付きで全面的にバックアップし活躍されている。

お年寄りの病院通いや買い物の足であつた町営巡回バスが廃止されたため、住民が話し合い、県のモデル事業として住民がバスを自主運行させていた。

乗客は燃料代として二〇〇円を支払う。運転は二種免許を持つ住民有志がボランティアで行うので休日は運行しない。豪雪地のため、住民が資金を出し合い除雪機二台を購入し、雪かき隊を結成して有料で家から道路まで除雪し、雪まつりも開かれている。

過疎化は進んだが、児童や小中学校生がいる二十代三十代の世帯も徐々に増えて住民は谷地区の将来に希望を持ち、谷自治振興会はその中核を担っている。

点に谷笑楽校を開設し、豪華な衣装の石見神楽を中心に住民が様々なイベントを行つて賑わいを創出し、また町外や県外との交流が盛んに行なわれ、各地区から見学に訪れる。

校舎に入ると昔懐かしい木造の教室には村の歴史を物語るように明治開校以来の生徒の写真が年次毎に壁一面に飾られ、今年十月には五回目となる卒業生会が開かれて、里帰りをした卒業生が一堂に会して会食し演芸で賑わった。

この事業は総務省の支援による地域おこし隊若手男女二名のスタッフが三年間の期限付きで全面的にバックアップし活躍を描いた海猿のロケ地となつた急峻な石段と史跡を巡る観光マップを作製し、住民のボランティアガイドを募り、更に空店舗を活用して観光客の休憩所と住民のふれあい広場を兼ねた手作りの施設が最近オープンした。運営するボランティアは六十年後半から七十代だが、皆さん活気に溢れていた。

自分達でペンキ塗りをして中古の椅子やテーブルを持ち寄った手狭なス

## 呉市の商店街に作られた 住民のふれあい広場

戦前軍港として栄えた頃の呉市の人口は四十万人、平成合併後の今の人口は二十四万人、市街地三条通り商店街は昔の賑わいがなくなり、空き店舗も出てきた。

そこで地元の有志四十名が集まり、まちづくり検討委員会を結成して大学の先生の指導を受け、海上保安官の活躍を描いた海猿のロケ地となつた急峻な石段と史跡を巡る観光マップを作製し、住民のボランティアガイドを募り、更に空店舗を活用して観光客の休憩所と住民のふれあい広場を兼ねた手作りの施設が最近オープンした。運営するボランティアは六十年後半から七十代だが、皆さん活気に溢れていた。

自分達でペンキ塗りをして中古の椅子やテーブルを持ち寄った手狭なス

ペースだが家族のようなぬくもりがあつた。コーヒー一杯一〇〇円、遊びにきた人の数が先月は六五七名、日曜は休みなので毎日三十名近い人が集まって、おしゃべりをし、将棋や囲碁などを楽しんでおられる。

念願の観光客の立ち寄りが少ないので口コミの宣伝がしたい様子だった。市からは家賃と光熱費が補助されている。

### 呉市の観光対策

鉄鋼と造船業を中心とした呉市は平成十七年の大和ミュージアム開設により年三六〇万人を超える観客が訪れたが、その後は徐々に減つて昨年は三〇〇万人を切つている。

またミュージアム観光だけでは地元の経済効果が少ないのも弱点だ。

そこで呉市は平清盛が沈む夕日を呼び戻したという音戸の瀬戸、江戸時代に朝鮮通信使が宿泊した迎賓館、船宿、商家、寺院などの建造物保存地区、旧海軍呉鎮守府などを観光コースにして市民のボランティアガイドが案内し、更に海軍グルメや塩づくり天体観測の体験など滞在して楽しむ観光のまちをめざしている。

そのための施策として市が講座を開いて市民ボランティアガイドを養成し、市民ガイドが企業や施設史跡を見学して埋もれている観光場所の開拓に取り組まれていた。

### 感想

谷笑楽校の壁一面に張られた卒業年



三条地区ふれあい広場

次毎の生徒の記念写真は私自身の小学校時代を思い出させるきっかけとなつてとても懐かしかつた。谷小学校の卒業生にとつて笑楽校は昔の自分と友達に会える大切な場所であり、人生の足跡を記した宝物だらうと思つた。谷笑楽校も呉のふれあい広場も建物は今風の小ぎれいな施設とは異なり、昔のままの素朴なたたずまで、我々が忘れていた。そこには人の温もりがあり、年老いても元気な笑顔が溢れていた。それは自分達が住むまちへの愛着が生み出す住民の結束、自分達のまちを何とかしたいという住民の行動が生みだした手作りで温もりがあるまち興しの取り組みであり、今後の本市まちづくりにつなげていきたい。

(視察研修プロジェクトメンバー)  
田中美知夫、中島勇夫、寺本修己  
石倉憲昭、松浦正明

## 人と人をつなぐ 情報伝達とは

### 「三団体合同研修会報告」

例年ない猛暑の中、松江市の町内会・自治会連合会、社会福祉協議会、公民館長会による合同研修会が、八月二十七日(月)午後、サンラボームらくもに於いて開催されました。

各地区におけるまちづくり、健康福祉、生涯学習などを、さらに充実発展させ、地域力を高め、豊かな地域づくりも関わり、各小・中学校、高等学



りに資することを目的に開かれている研修会も今年で五回目を迎えました。あの忌まわしい東日本大震災を契機に人と人の「絆」が見直されている折から、今回は、近年急激に進歩しているインターネットを利用した情報交換の効用についてお話を聞きました。

テーマは「災害時に威力を發揮するメディアとは」で、講演講師には、「デジタル時代だからこそ人が大切」をモットーに、よりよい情報化社会を先導しておられる「Windows 95」の代表取締役「長谷川陽子」様をお迎えしました。

内容は、「一九九五年のWindows 95の発売に始まるインターネット時代のこれまでの歴史に沿つたお話でした。なかでも大震災においての通信手段の混乱の中で、ソーシャルメディア（インターネットを利用して情報伝達手段）は、特に災害初期においてその威力を發揮し、被災者やそれを気遣う人々が懸念されます。

そういう観点から考えると、我々もそろそろ頭を切り替え、時代の流れに乗つていく必要があるのではないかと感じました。

しかし、進歩、合理化も必要ですが、人間は自然（宇宙）の中の存在であることも忘れてはいけません。そして人と人のつながりは顔と顔を突き合わせての対話、「目は口ほどにものをいう」が基本だということを心にとめておきたいものです。

便利なツールではあるが、それを使おうのは人です。決してツールに使われていません。

講師の長谷川先生は、情報モラル教育にも関わり、各小・中学校、高等学

たちにとって、有効で心強いものだつたそうです。さらに、二〇一〇年末の山陰の雪害の際にも、店舗の情報、道路の状況、避難所などの情報発信や収集に活用されました。

またフェイスブック（実名登録制で情報の信頼性が高く、実社会の人間関係に近く、世界最大の利用者数）を利用している中での旧知との出会い・再会は、昔、ラジオで流れていた尋ね人の時間での人探しが、現在では、飛躍的に可能になつているということです。

一方では、公的機関でも、ツイッターやフェイスブックが利用されるようになっており、それを活用する人とそうでない人とのデジタルデバイド（情報格差）が益々大きくなつていくことが懸念されます。

そういう観点から考えると、我々もそろそろ頭を切り替え、時代の流れに乗つていく必要があるのではないかと感じました。

しかし、進歩、合理化も必要ですが、人間は自然（宇宙）の中の存在であることを忘れてはいけません。そして人と人のつながりは顔と顔を突き合わせての対話、「目は口ほどにものをいう」が基本だということを心にとめておきたいものです。

便利なツールではあるが、それを使おうのは人です。決してツールに使われていません。

（編 集 後 記）

昨年の夏は連日の猛暑が続き、一転して晩秋からは悪天候が続き、寒波も例年より早く襲来ましたが、それもこれも地球温暖化の異常気象のなせる業かと思うのは気の回し過ぎでしようか。年末には三年ぶりに総選挙が行われ、新たな民意と新しい政治体制が形成されました。一日も早い円高ドルの成されましたが、一日も早い円高ドルの解消や政治不信を払拭してほしいものです。

そうした中、私達松江市町内会・自治会連合会はそれぞれの地域の自治活動の進展と、行政との協働のまちづくりをめざし活動を進めています。皆様のご理解とご支援をお願いし本号を届けします。

（松江市市民生活相談課内）

校で、講義をされ、便利なツールではあるが、その使い方を誤らないための指導も続けておられます。

私たちにとりまして今回の研修会は、刻々と進む世の中の流れに目を向けるよい機会になりました。

（研修会プロジェクトチーム）

三島健治、福島利光、田中美知夫、熊谷和恭、吉岡誠一、井上寛巳

（町自連まつえ）広報担当者  
後藤 眞一・熊谷 和恭・松本 光弘

（松江市市民生活相談課内）